り，養浜工事が実施される以前の須磨海岸の砂も周辺の山々に由来したものであろう.しかし，人工的に投入された現在の須磨海岸の海浜砂は，海岸の後背の山々や周辺の山々に由来するものではない．須磨から離れた遠くの山々が故郷である．客土（砂）を投入して養浜した現在の須磨海岸は，地質的には後背の山々と無関係の存在となり，海と山に異質の地質環境が並立していることになる．問題はこのことが他の自然環境にどのような影響を及ぼすか，ということである．

須磨海岸から西方へ直距18～19km地点に位置する明石海岸江井島地区（明石市大久保町）は，須磨海岸と同様に養浜工事が実施された人工海浜である．平成7年，この人工海浜に産卵のためアカウミガメが上陸した．これは養浜工事によって投入された客土（砂）がこの海浜に定着したこと，砂浜に汚れがないことの証明であり，人工海浜でも自然海岸と何ら遜色がない良好な環境が維持されているといえる．明石海岸に近い須磨海岸にはウミガメが上陸する日が来るのだろうか？

ある地域で人為的に異質の地質環境が並立したが，それが他の自然環境に何らかの影響を及ぼすのではないか，という筆者の懸念は，神戸市・須磨人工海浜については杞憂に過ぎないかも知れない．

（次回は「冬　三題」）

# 産学官連携推進センター発足のお知らせ

◇ 本年4月1日，地質調査所内に産学官連携推進センターが組織として発足しました．昨年4月から従来の地質相談所の業務を産学官連携推進センター業務とし，地質相談所長がセンター長を併任するという形で産学官連携推進センターの名称はすでにありましたが，4月からは専任のセンター長を置き，6名の併任者を加え，総勢7名から構成されることになりました．

◇ 地質調査所における産学官連携の業務は，これまで個々の研究部・研究者レベルでの人的ネットワーク形成と交流，これらを通しての技術移転や共同研究発掘などとあわせ，組織的な活動としての地質相談，広報活動，あるいは地質図等の出版による成果の移転等々として実施されてきました．これらの業務は組織的には下記のように，いくつかの部署による分業体制で進められてきましたが，この度の産学官連携推進センターの組織発足により，各部署から当センターに移されることとなりました．

**共同研究・受託研究等の窓口**：企画室
**技術指導・人的交流等**：総務部庶務課総括係
**地質相談**：産学官連携推進センター（地質相談所）
**広報活動**：統括研究調査官室・総務部業務課広報係

◇ 地質調査所の対外的業務は，上記のほかにも地質標本館を中心にした地球科学試資料の展示公開や地質情報センターによる地質図等の出版，国際協力室による国際的連携活動があります．この役割分担は良好に機能しており，今後は産学官連携推進センター強化とともに一層の連係プレーを発展させたいと考えています．

◇ 地質調査所の広報活動としては，地球科学情報の社会的共有という観点から，本誌「地質ニュース」の編集やホームページの開設，また産学官との交流を伴う各種講演会への講師派遣，研究発表会の開催，さらには地域地質情報展やサイエンス・キャンプの実施など，広く社会に開かれた活動を行ってまいりました．これらを当センターで引き続き実施していくとともに，産業や社会の構造改革，意識改革の進行にあわせ，広報活動の一層の工夫を計る所存です．

連絡先：305-8567　つくば市東1丁目1番3
工業技術院地質調査所
産学官連携推進センター
電話：　0298-54 -3520（広報），
-3540（相談），
-3717（共同研究等）
ファックス：0298-54-3569
E-mail：soudan@gsj.go.jp